『里山オオタカ物語』とは

里山オオタカ物語とは、里山環境にて暮らすオオタカ(日本産)の、一年を通した営みを、季節の進行に沿って、生態写真とエピソードによって綴った生態記録写真集です。

内容は、①秋～冬～春、 ②春～夏、 ③越冬地の情景 の 3 部構成となっています。

① 秋～冬～春では

営巣林に♂と♀が現れるようになり、定着させまいとするカラスとの攻防、見張り場の確保、ライバルとの争いなどを経て、森への定着を果たすまでの様子。

および、それと並行して、眠る、水浴び、羽繕い、ストレッチなどの森での日々の暮らしを著した内容です。

② 春～夏では

営巣林に定着した♂♀が、ディスプレイ、求愛給餌などを経てペアとなり、交尾、巣造り、餌渡しなどの繁殖活動を行い、抱卵に至る様子。

そして、雛が孵化した後の子育ての様子、および巣内育雛期に起こる、侵入や威嚇、餌渡し、など成鳥の働きや、雛の成長などの様子を著した内容。

さらに、雛が成長し巣立ちを迎え、巣立ちした後の幼鳥の様子、それを支える成鳥の様子など、巣外育雛から幼鳥が森を去るまでの様子を著した内容です。

③ 越冬地の情景では

秋～冬に大陸や北方等から渡って来たオオタカや、繁殖期を終えたオオタカが、川や池などの越冬場所で見せる、生態の数々を捉えた内容です。

以上のような一年を通した生活の様子は、通常の里山自然環境では、なかなか見ることが出来ません。　それらを写真集にまとめることで、色々な方にオオタカの自然の姿および、その素晴らしさをお伝えし、次世代の人達にも興味を持ってもらいたいと思っています。

みんなが無関心になった時、その鳥の存続は危うくなってしまいます。

希少種を解除されたオオタカですが、いつまでも身近な森で長く生存してもらいたいと思っています。

尚、撮影に当たっては、日常の観察を長期間注意深く続け、被写体となる個体の行動パターンや、性格まで把握してから臨みました。